



少年男子A・やり投げで4位入賞の横堀雅孝選手
(5日、和歌山市の紀三井寺公園陸上競技場で)

紀の国わかやま国体の陸上競技少年男子A・やり投げが5日、和歌山市の紀三井寺公園陸上競技場であり、田辺高校3年の横堀雅孝選手が自己ベストを69メートル更新する66メートル38センチを記録し、4位に入った。

横堀選手は3投目で自己ベストをマーク。しかし、「4投目の時、力が入り過ぎて前のめりになり、左足の筋を痛めた」(横堀選手)ため、その後は踏ん張りが利かず十分な助走ができなくなり、記録が伸ばせなかったという。

「(体調が万全で)タイムングが合っていれば70メートルを出せたと思うので残念」と悔しさをにじませた。

横堀選手は今年、近畿高校総体で62メートル23センチ、全国高校総体で65メートル69センチを記録し、上り調子。国体では70メートルの記録と日本一を目標に掲げていた。

今後は日本ジュニア陸上競技選手権大会、世界ジュニア陸上競技選手権大会に向けて調整する予定。「そのためにまずは70メートルを出したい」と気を引き締めていた。



井谷鼓選手

と気を引き締めていた。この日あった少年男子共通5000メートル競歩では、田辺工業高校3年の井谷鼓選手が20分32秒56の自己ベストをマークして6位に入った。

入賞について井谷選手は「県チームに貢献できてうれしい」と喜んだ。レースについては「万全の体調で臨んだが、先頭集団のペースが3千

メートルを過ぎた辺りから上がり、それについていけなかった」と振り返った。

井谷選手は競歩の大会に本格的に出場したのが今年7月からと経験は浅い。しかし、近畿陸上競技選手権大会では「絶対に優勝する」という強い気持ちで臨み、21分42秒35を記録して優勝。国体出場を決めた。

やり投げ横堀選手 田辺高 4位

競歩の井谷選手 田辺高 6位

陸上競技